

県北地域における畜産振興に関する取組（概要）

－ 関係機関・関係者等との連携による取組推進－

□ 県北地域における背景等（人口、販売農家数の推移）

・県内でも、特に、県北地域は、農業後継者不足等が課題 → 担い手の確保・育成

1 人口の推移 (万人)



県北地域において、人口は20年間で、42万8千人から34万8千人に減少（⇒約2割減）

2 販売農家数の推移 (千戸)



県北地域において、販売農家数は、20年間で、1万3千戸から5千3百戸に減少（⇒約6割減）

□ 新規繁殖和牛経営入門講座

・繁殖和牛経営への新規参入希望者等を対象とした講座の開催:H23～
→新規参入者や後継者を育成することにより、常陸牛を始めとした本県肉用牛の生産基盤の強化と品質の向上 ⇒ **地域の畜産振興を図る**

◆茨城県肉用牛研究所での座学等 + 大子町等の畜産農家の協力を得て「現場体験実習」を実施



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	計
受講者数	4	3	16	9	14	18	12	8	8	14	10	116
うち開始者	1	1	3	2	3	3	3	3	3	3	3	28

□ 優良繁殖和牛群整備対策事業

・和牛繁殖雌牛の増頭による生産基盤の強化等:R2～4



	R2 実績	R3 実績	R4 見込み	計
支援農家 (延数)	12	9	10	31
増頭数 (支援数)	122	71	83	276

□ 大子町和牛繁殖活性化クラスター

・新規就農者の確保、労働負担の軽減、飼養規模の拡大、自給飼料の拡大等



◆キャトル・ブリーディング・ステーション(CBS) 整備支援:繁殖牛舎、堆肥舎、飼料調製保管施設等

*安定的な「一年一産」を目標とした繁殖支援施設
→農家から母牛を預かり、種付け、妊娠鑑定実施し、農家に戻す
(**農家負担軽減⇒規模拡大**)

□ 奥久慈しゃも



・本県は、江戸時代から「しゃも」の飼育が盛んだった(全国有数の産地)

→県北山間地域の産地から依頼を受けた茨城県養鶏試験場(現:茨城県畜産センター)で改良を重ね、生産開始:S50～

○昭和63年:全国特殊鶏(地鶏)味の品評会第一位 ⇒ 日本一の地鶏(評価)

○平成30年:GI(地理的表示)登録地鶏として、全国初の登録

*県北地域の銘柄畜産物として、県内外で流通食材にこだわる料亭やレストラン等からも注目

□ 奥久慈しゃも生産入門講座

・高齢化や後継者不足等により生産者の減少
→担い手を確保するとともに、地域の畜産振興に資するため、新たな試みとして「入門講座」を開催



◆講義(奥久慈しゃもの概要、飼育方法等) + 実習(生産農業の見学)

奥久慈しゃも生産組合

□ 大子町地域循環型奥久慈しゃも生産育成クラスター

・飼養規模の拡大、担い手の育成、労働負担の軽減、耕畜連携による堆肥の利用促進を図る

◆鶏舎整備支援:規模拡大(飼養羽数の増加)

◆耕畜連携の推進(鶏糞堆肥の利用)

